



あらたな飛躍を めざして

昭和63年度

白水市長施政方針〔要旨〕

昨年度は「新しい春日市の創造」に向けての種をまいた年でありました。

本年度は、そのまいた種をしつかりと大地に根づかせることが私の課題であります。

今日、地方自治体をとりまく社会経済情勢は大きく変動し、情報化、高齢化、国際化など新しい政策課題が次々に出現しつつあります。

めまぐるしく変わるこれらの情勢に即応し、さらに多様化するであろう市民のニーズ(要望)に的確に対応しながら、地域の独自性を発揮してこそ、地方自治の確立と地域のアイデンティティ(主体性)がつけられるものであると確信しております。

重点方針

―市民ステーションとしての新庁舎へ―

議員の皆様による「庁舎問題特別委員会」を設置し、市の中央部と、昭和61年4月に「春日市新庁舎位置選考審議会」から答申された旧米軍基地跡地を検討いただいているところであります。

これからの市庁舎は、単なる職員の職務遂行の場にとどまらず、市民のふれあいを通して豊かな感性をつくり出す場として、また地域情報のステーション（発信基地）として、まちづくりの中核的な施設になるものと考えられ、今後のあらゆる公共施設計画に影響するものです。このため、できるだけ早く新庁舎の位置を決定し、建設の目途と方向を示しておきたいと考えております。



たこ足庁舎？

―交通ネットワークの充実に―

すでに人口八万一千人を超えた本市では、道路、公園、下水道などの市民生活の質の向上を図る都市基盤の整備が、重点施策の一つと考えます。その中でも、私が最も力を入れていきたいと考えているのが、交通ネットワークの整備です。

本市も新たな視点に立ち、幹線道路について早期整備を図るため、都市計画マスタープランを策定し、今後の交通体系の充実に努めてまいります。

本市を南北に貫く主要地方道福岡・筑紫野線の拡幅事業について、県道ではありますが、早期実現に向け努力していく考えです。

次に光町交差点の改良にも取り組めます。

観光道路側の慢性的な交通渋滞を解消するとともに、光町から地藏子公園を経て文化会館へと通行できるように光町交差点周辺を改良するものであり、本年度に調査を実施します。

昭和65年とびうめ団地に向けての、進入路である都市計画道路長浜・太宰府線の改良事業について、松ヶ丘交差点周辺整備を新規事業として計画しております。

さらに、那珂川町から宝町に通じる都市計画道路那珂川・宇美線については、沿道の調査を行い、将来の街路事業に向けて布石を打つとともに、大谷小学校入口周辺の交差点改良を進めてまいりたいと考えております。

JR九州鹿児島線の白木原駅西口の開設については、引き続き関係市、機関と協議を進め、環境整備を含めた新しい拠点として捉え、国体までには実現したいと考えております。

―住みよい環境づくりに向けて―

住宅都市としての立地条件を備える本市は、近年、とみに中高層ビルやワンルームマンションの建設が行われ、近隣住民とのトラブルが生じております。そこで、残された土地の利用について長期的総合的に取り組む必要があり、よりよいコミュニティ環境の実現を図るため、本年度から「春日市開発行為等に関する整備要綱」を実施に即した方向で改正し、より具体的な指導を行うため「都市開発審査会」を設置します。

―下水道で快適な生活を―

下水道事業においては、一日も早く利用できるように御笠川・那珂川流域下水道地域の市町と連携を図りながら、区域の拡大に積極的に取り組むたいと考えております。

―よりよい行政は市民の手で―

市民代表や学識者からなる「春日市行政改革推進委員会」を設置し、昨年11月に効率的な行政改革を推進するための提言をいただきましたので、行政改革大綱を策定し積極的に実施していきます。この行政改革によって、行政が行

う分野と市民の皆様が自ら行う分野を明らかにし、お互いが自助努力を発揮していただくではありませんか。

―魅力ある「かすが」にむけて―

今日の社会経済情勢に的確に対応しながら、地方経営の時代に向けた市政運営の指針となる「第三次春日市総合計画」の作成に向けて調査を開始します。作成に当たっては、本市のもつ可能性を最大限引きだし、愛着と誇りのもてる魅力ある春日市づくりをめざし、いまこそ知恵と勇気を出して、二十一世紀に向けてのまちづくりの方向をしっかりと見定め、「おらがまち春日」を創造していきたいと考えております。

都市基盤の整備

―計画的なまちづくり―

長浜・太宰府線をはじめ那珂川・宇美線、中原・池の内線、白水線についてそれぞれ調査や整備を計画的に図っていきます。

雨水対策として小倉排水路、春日排水路の整備事業を引き続き推進します。

下水道事業については、積極的に事業の推進を図り市域面整備率五〇・五パーセントを目標に努力します。

―やすらぎの場となる公園へ―

白水大池総合公園、下白水第二近隣公園については、引き続き広場を整備して公園機能の充実を図り、大下公園（大字須玖）の施設拡充を行うなど、積極的に市民の安らぎの場となる公園として整備したいと考えております。



白水大池総合公園は、昭和65年の国体に向け、本年度、サッカー会場の整備を完了します。

―ゆったり歩けます―

交通安全対策として、新たに春日南小学校から紅葉ヶ丘交差点に向けての市道を、二か年にわたり歩道と車道を分離し、市民の日常生活の安全確保に努めていく考えであります。

社会福祉の充実

―はたらく喜びと自立をめざして―

障害者に必要な職業訓練を行い、働く喜びと自立の促進を図るため、金塚池の開発地に心身障害者共同作業所の用地を確保し、建設を計画しております。

市民のボランティアの輪を拡大するため、心身障害者向けの各種大会などのガイドヘルパーや、「市報かすが」の朗読などのボランティア活動者に対し補助を行います。在宅の重度身体障害者や老人対策として、家族が不在の際に一週間を限度として福祉施設において介護する「在宅重度身体障害者短期保護事業」を実施し、「春日市身体障害者福祉対策長期行動計画」にそって事業を進めていきたいと考えております。



みんながんばっています
〈共同作業所〉

「お願いします、健康は自分の手で」

近年、国民健康保険事業は、恒常的な医療費の増加により財政危機が叫ばれております。本市においても、特に高齢者医療費を含め極めて厳しい状況にあるのが実態であります。このような状況の中で、本年度は、保険料の均等割、平等割、最高限度額をやむをえずアップしているところであり、長期的展望に立って、被保険者の医療費に対する意識の向上をさらに図り、市民の皆様各層に応じた健康教育をすすめるが、引き続き市民健康調査、一日人間ドックなどを実施いたします。

「みんなできれいなまちに」

ゴミの減量化と資源の再利用についてなお一層のご協力をお願いするものであります。ゴミの減量化対策として、廃品回収を行う市民団体に対し報償金を交付し、活動費の一部に活用し



1kgにつき、5円の報償金があるんだって…がんばろう

ていただきたいと考えております。

教育文化の向上

「快適な学習環境をつくりまします」

老朽化した春日北小学校屋内運動場の大規模改造を、また春日中学校第一棟校舎の大規模改造を行い良好な学習環境を提供し、さらに心身を鍛えあげるために春日南中学校に柔剣道場を整備することにしております。

「アスベスト」(石棉内装)については、順次計画的に改修してまいります。

「子どもたち集合」

青少年野外活動場については、市域外ではありますが建設を計画しておりますのでどうぞ十分ご活用いただきますようお願いいたします。

全国的に注目を浴びている児童センターは、光明に地域児童の創造の館として、既存施設の一部を整備するよう計画しております。

「生涯教育は公民館活動から」

地域の生涯教育の拠点となる地区公民館については、地区再編成と併せて計画的に整備を進めておりますが、本年度は須玖北地区に建設を計画しております。

「育てよう「弥生のふるさと」」

春日市は、文化財の発掘が相次ぎ、出土品については、数えあげればきりがありません。その中心である岡本地区に史跡公園をめざして調査、研究をいたします。



ウトロ窯跡発掘現場

行財政運営

「活力ある行政に向けて」

行政運営につきましては、すでに述べてきたところですが、事務事業の効率化および活性化を図るため、本年4月1日から組織機構の改正を実施いたしますので、どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。